

はじめに

本市では、グローバル化や高度情報化といった社会状況が大きく変化する中、子どもたちが新しい時代を生き抜くために求められている「総合的人間力の育成」を重点的な教育課題として掲げており、教育センターにおいてもこの重点課題に取り組む方策として、教職員研修や調査・研究、教育相談、情報教育の推進などの事業を展開してまいりました。

今年度の調査研究活動における研究グループは、昨年度と同様の「発達理解」「ICT活用」に加え、「英語教育」「道徳教育」「校内研修活性化」「不登校対応」の計6グループで新たに構成しており、次年度までの2年間を目処に研究を深めております。

発達理解研究グループでは、漢字学習や学習に向かうための姿勢（身体）づくりなどを研究テーマとして取り組んでおり、次年度は漢字字形の指導法や課題解決のために効果的な体操等を探求してまいります。

ICT活用研究グループでは、小中一貫のカリキュラムづくりやタブレットパソコン等を活用した授業研究について取り組んでおり、プログラミング学習が導入される次期学習指導要領を見据えた研究を進めてまいります。

英語教育研究グループでは、「英語で話せる吹田っ子」に繋がる英語力の育成等の研究に取り組んでおり、中学校第3学年における英語のディベート等を目標に掲げ、小・中学校における英語教育のあり方について研究を進めてまいります。

道徳教育研究グループでは、道徳教育の実施状況を踏まえ、次世代に適応した道徳教育を実践する授業研究について取り組んでおり、道徳の授業実践に生きる素材の発信や授業づくりの提案など、「特別の教科道徳」の完全実施に向けた研究を進めてまいります。

校内研修活性化研究グループでは、教職員が共通の視点を持つことやその視点を教育活動に活かすことなど、さらなる活性化を目指した研究に取り組んでおり、研究授業の定着や組織的な授業力の向上など、様々な提案を発信してまいります。

不登校対応研究グループでは、さまざまな理由から学校に行けない子どもたちの理解を深めるための手法・方法等を研究しており、次年度は多様な取組の紹介や校内体制の提案、関係機関との連携案等を発信してまいります。

今後も、校内研修を内外から支援し、研究団体とも連携をしながら、その成果を発信するとともに、不登校児童・生徒支援事業や教育相談事業とも関連を持たせながら、本市の園児・児童・生徒の育ちと学びを支援していく所存です。

結びに、本紀要を「研究報告書」としてまとめるにあたり、スーパーヴァイザーの皆様をはじめ、研究員として委嘱させていただいた教職員、ならびにご理解とご協力をいただいた学校・園の関係者の皆様に、厚くお礼を申し上げます。

平成29年（2017年）3月

吹田市立教育センター
所長 大江 慶博